

2021 年度兵庫県立播磨南高等学校第三十六回卒業式 式辞

2022 年 2 月 28 日

校長 吉田尚美

凜と引き締まった寒さの中にも、春の日差しのまぶしさが感じられる今日のよき日、ご来賓のみなさま、保護者のみなさまのご臨席を賜り、卒業証書授与式を挙行できますことを、心より感謝申し上げます。

第三十六回卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。卒業生の皆さんがこれからも幸せな人生を歩まれることを心より願っています。

幸せな人生を送るためにすべきことについて、哲学者のニーチェはこう言いました。「最初に自分を尊敬することから始めよう。まだ何もしていない自分を、まだ実績のない自分を、人間として尊敬するんだ。自分を尊敬すれば、悪いことなんてできなくなる。人間として軽蔑されるような行為をしなくなるものだ。そういうふうに生き方が変わって、理想に近い自分、他の人も見習いたくなるような人間になっていくことができる。それは自分の可能性を大きく開拓し、それを成し遂げるにふさわしい力を与えることになる。自分の人生を全うさせるために、まずは自分を尊敬しよう。」

皆さんは一人ひとりが、かけがえのない存在です。誇りを胸に、歩み続けてください。そして、より高みを目指すために、生涯学び続けてください。

学ぶことについては、今までは頼まなくても、先生や保護者の方々、地域の方々が色々なことを教えてくださいました。時には教えてもらうのが嫌になることもあったと思います。けれども、社会に出て年を取るにつれ、だんだん教えてもらう機会は減っていきます。大人になったあなたに、わざわざ自分の時間を割いて教えてくれる人はいなくなります。社会に出たら、自分から学ぼう、教えてもらおうとしないと誰も教えてくれません。ですからこれからは「教わる力」が必要に

なってきます。教わるためにはまず、自分のこれまでのやり方や考え方にこだわらず、新しい環境になじみ、ゼロから覚えることからスタートすることです。教わる相手の言っていることをよく聞き、相手の求めるものにしっかり応えるようにします。教えてもらっている時に、的外れの自分の意見ばかり言っていると教えてもらえなくなります。教わる力のある人は、自分が無知だと自覚している人、素直で先入観を持たない人です。そして教わりきったあとで、有用なものは使い、そうでないものは使わないようにして、自分オリジナルの判断基準を見つけていきます。

オリジナルの判断基準を作るためには本を読むことが大切です。小説、哲学書、漫画などジャンルは問いません。例えば中島敦の「山月記」を読んで、自分のわがままな感情を抑えることの必要性を学ぶとか、「鬼滅の刃」を読んで、人間は組織を作って、一人ではできないことを協力して成し遂げることができるということを学ぶとか、正義とは何か、友情とは何か、責任を果たすとはどういうことかなどという、人としての根本的な判断基準を、本を読むことで自分の中に作り上げるのです。

自分の中にしっかりとした判断基準を持つことができれば、世の中が大きく変化しても、危機に直面しても、他人の意見に流されて後悔することはなくなります。偉い人が言うことだから、見た目がかっこいいから、わかりやすい言葉で断定的に言うからなどという理由で、情緒や感情に流されて、従ってしまうことはなくなります。一人の主権者として、科学的な論理性と、高い志に裏打ちされた判断を下し、よりよい社会を作っていくことができます。

そして、その自分の判断基準を常にアップデートしていくのです。どんなに立派な判断基準でも、時代の流れの中で古くなっていきます。自分の判断基準を、絶えず疑い、勇気を持って壊し、再構築することです。それができれば、いくつになっても成長し続けることができます。

す。みなさんが自分自身を尊敬し、高い志を持ち、不断に学び、一生成長し続けていかれることを願っています。みなさんの将来が健やかで、幸福に満ちた日々であることを祈念し、式辞といたします。